

場のウェルビーイングから地域社会を考える：
測定と応用可能性

京都大学 人と社会の未来研究院

内田 由紀子

国際比較⇒指標作成と測定⇒社会実装

- 東洋的価値に基づく「協調的幸福感」の概念化と指標開発 (2015) ⇒ 世界幸福度調査 (World Happiness Report) の「balance and harmony」への導入(2022)
- 第4期教育振興基本計画におけるウェルビーイング概念のコンセプト提案と採用(2023)⇒ 教育の場のウェルビーイングへの展開
- 地域の幸福度の指標とFB研究開発 (JST未来社会創造事業 2015-2020) ⇒ デジタル庁デジタル田園都市構想における地域のウェルビーイング指標へ

- 地域の幸福・・・かつては経済状態・労働状況・人口動態で測定するしかなかった

→地域の格差の顕在化

- 心理指標については個別測定の平均値

→マクロとマイクロの総合的検討が困難

⇒幸福が地域内で伝播・循環するような仕組み(not 競争モデル、but共創モデル)を支える地域環境について検討し、**地域のウェルビーイング**を多面的・多次元的に評価する必要

ウェルビーイングとは何か

- Well-being: 新しい「ものさし」・コンセプト

経済だけではなく「こころ」の充足、生活への評価・感情・価値、健康まで含めてとらえる

- 自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街・国が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えること

- 「幸せ」とウェルビーイングの違い：

- happiness = より短期的で個人的な状況評価・感情状態

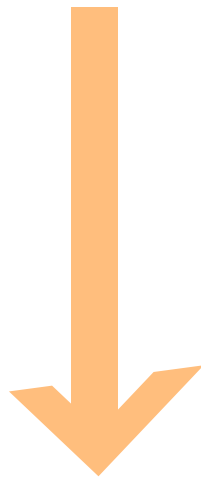
- Well-being = より包括的で、個人のみならず個人をとりまく「場」が持続的によい状態であること

ウェルビーイングの深化



- 今が楽しい
(個人・現在)
- これからの将来に希望を持てる
(個人・将来展望)
- 職場や地域の人々の幸せを願う
(社会・共生)
- この町・職場・世界を良くしていきたい
(利他性・公共・持続)

ウェルビーイングの
深化



ウェルビーイングを考える際の注意点

1. 意味の問題（よくある誤解）：

生きがい・人生の意義（ユーダイモニア）＞快樂（ヘドニア）

2. 意味は国や地域の文化により異なる

→それぞれの国・集団・地域での文化的価値につながる「ウェルビーイング」のあり方を考える必要がある

→世界ランキングではなく、現場の状況を知ることが重視することが大切

3. 多様なウェルビーイングの求め方を認める

「まち」とウェルビーイング



いくつかの要素があり、それらがうまく「循環」する状態

- 運動機能・健康向上による自立
- 他者との出会いによるつながりと協調
- 「楽しみ」と「安心」
- 「場所」がもたらしてくれる感動(Awe)や共感

⇒ 町や他者への向社会性を促進

幸福政策＝個人の幸福

1980年代～「幸福な個人」の研究

幸福な人物とは
若く健康で、よい教育を受けており、収入が良く、
外向的・楽観的で、自尊心が高く、
働く意欲がある者・・・
(Myers & Diener, 1995)



一方で個人が幸福を追求することが、場や公共に悪い影響をもつなどの問題（例：環境配慮行動におけるジレンマ）、あるいは格差による社会不安・不満の上昇

個人の幸福に関連する研究



幸福のもとめかた（“**文化的幸福観**”）

- 北米的幸福
 - 個人の自由と選択
 - 自己価値の実現と自尊心の高さ
 - 競争の中でもまれる
 - それらが翻って社会を豊かにするという信念
 - **獲得的幸福観**

幸福のもとめかた（“文化的幸福観”）

- 日本的幸福
 - 幸福の「陰と陽」
 - 他者とのバランス
 - 人並み志向
 - まわりまわって自分にも幸せがやってくるという信念
 - **協調的幸福観**

人生の満足感尺度 (Diener et al., 1985)

- 私は自分の人生に満足している。
- 私の生活環境は素晴らしいものである。
- 大体において、私の人生は理想に近いものである。
- もう一度人生をやり直すとしても、私には変えたいと思うところはほとんどない。
- これまで私は望んだものは手に入れてきた。

獲得系・北米

人並み・協調的幸福 (Hitokoto & Uchida, 2015)

- 自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う
- 周りの人に認められていると感じる
- 大切な人を幸せにしていると思う
- 平凡だが安定した日々を過ごしている
- まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う

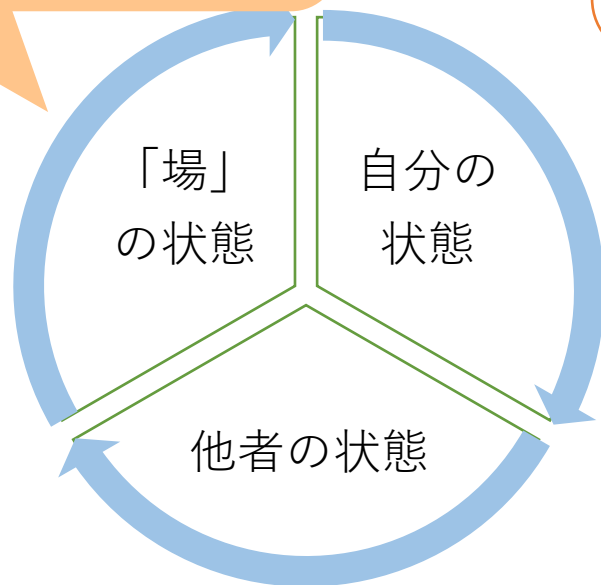
協調系・日本

「場」のウェルビーイング＝自・他・場の循環

職場や地域、街など、個人の集合体
空気感や価値観の共有現実を生み出す

例：一人一人の働き方の志向性をうまく職場全体の生産性につなげられる仕組みとは？

・高齢者から子供まで多様な人たちがそれぞれに楽しみながら健康を増進できる町づくりとは？



互いの幸せな状態
「ウェルビーイング」
を循環させる



好循環を支える要因の解析

これまでの研究から見えてきた地域のウェルビーイングに関する要素

- 1) 主観的幸福、信頼関係、向社会性の「循環」
- 2) 開放性と地域内信頼の連携
- 3) 町への「アイデンティティ」と愛着

場所をもたらすウェルビーイング



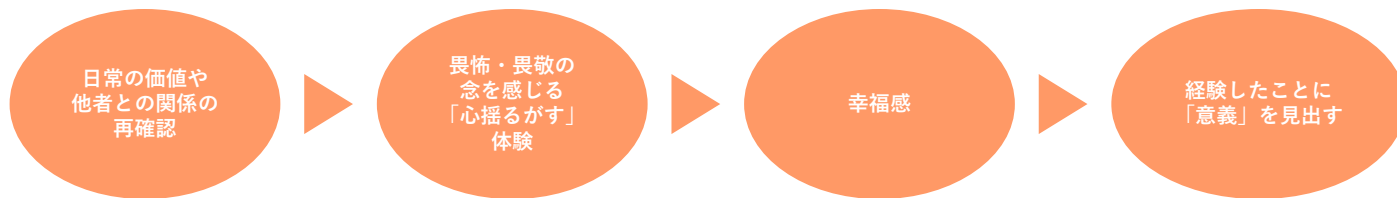
- 嬉しい、快い、ほっとする、わくわくする
- 生きがい→場所は、歴史的に積み重ねられてきた人々の交流、経済活動、喜び・誇り・悲しみなどの感情的記憶と結びついている
- 畏敬の念

共感の場所、感動がうみだすもの

あらたな価値に触れ、共感し、**こころが動く場の創出**

想像と創造による価値の発見

日常の価値を確認し、**つながりを生み出す**



出典：内田由紀子(2021)「こころの文化－コロナ禍の幸福と芸術の役割を考える」CEL 127号

文化に関する世論調査(2022)



文化庁の紹介



政策について



行事・シンポジウム



広報・報道・お知らせ

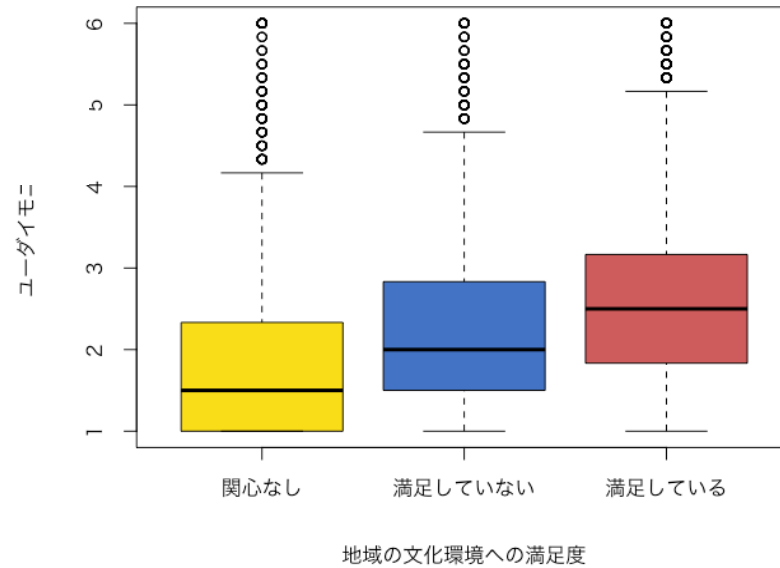
🏠 [ホーム](#) > [統計・白書・出版物](#) > [統計・調査研究等](#) > 文化に関する世論調査の結果について

文化に関する世論調査の結果について

▶ [文化に関する世論調査（令和3年度調査）](#)  (2.8MB)

[（参考）文化に関する世論調査-ウェルビーイングと文化芸術活動の関連-報告書](#)  (2.9MB)

Q4ユーダイモニアとQ12地域の文化環境へ満足度の関連



地域の文化環境に満足していることはユーダイモニアと関連

▶ 「関心がない」層への働きかけが大切

展望：まちと個人

- まちのなかで幸福や健康、生きがいを支える要件をとらえて、大切にしていく
- 自分の身近な誰か、あるいは知らない誰かにさえも、自分の行動や思いが巡り巡って影響を及ぼすのが「社会」
 - 幸福や健康、生きがいは実は社会や文化とつながる集合的な現象でもある
 - 自分の気持ちや行動が他者の幸福につながっていることに気づいたうえでの意思決定や行動をしていけるのかどうか
が問われている

創りたい未来社会

個の状態を支える場の設計により 個のウェルビーイングを実現する社会

- ✕ 個人が最適化を目指し各々が対立する社会
- ✕ 場の最適化を目指し個人が搾取される社会



☆ 個人のウェルビーイングと
場のウェルビーイングが
循環し共創的にはたらく社会

社会が目指すwell-beingと実装レベルの乖離
を埋めるべく、well-beingに関する価値観と
測定にまつわる技術を転換すべきフェーズ





palgrave pivot

An Interdependent Approach to Happiness and Well-Being

Yukiko Uchida
Jeremy Rappleye

palgrave
macmillan

幸福について

これからの

文化的幸福観のすすめ

appiness

内田由紀子

文化心理学と幸福に関する
21世紀以降の国内外の研究知見から、
地球規模で考え、
地域視点で見つめ直す。
**ポスト・グローバリズム時代の
幸福像。**

新曜社 定価(本体2200円+税)

幸せな人とは
どんな人だろうか？
日本における、
幸福な社会の
ありようとは？